

moshi moshi

2002 Vol.17

お医者さんと上手にコミュニケーションしましょ

特集：「耳下のリンパ腺の腫れ」



耳の下、首の部分にリンパ腺の腫れがあり、これがなかなか消えないと、必ずというほど「もしかして、悪いたちのものではないか」という不安に発展するようです。夏から冬にかけて首の後ろ側にいくつも小さいグリグリがあるという悩みは少なくありませんが、いずれも、長くは残るけれど、ほとんど心配はないものです。

低ガンマグロブリン血症

血液中には細菌と闘ってくれるガンマグロブリンというたんぱく質があるが、それが生まれつき低すぎると中耳炎や敗血症、肺炎などを繰り返しやすい。小さいうちは大人に比べて低いし、一時的に低い子どももいるが、1才半から2才くらいには自然に上がってくる。しかし、ブルトン型低ガンマグロブリン血症という重いタイプの病気や、注射でグロブリンを入れないと感染症を繰り返す病気もあるので、何回かの検査結果ですっと低い場合や、感染症を繰り返す場合は小児科で相談したほうがよい。



意識を失うこともある

泣き入りひきつけ

子どもが激しく泣いたときに起るけいれん発作。激しく泣いて呼吸ができなくなり、顔から血の気がひく。ときには意識を失うが、じきに意識は回復する。息をこらえたために神経の反射で一時的に脳に血が回らなかったり、酸素が不足するのが原因。ひどい場合は手足をふるわせるけいれんになることもある。放置しても4～5才で自然に起こさなくなるが、たびたび発作があるときはけいれんを起こす他の病気であることも考えられるので、小児科の診察を受けるとよい。大泣きしたときには抱きあげるのが予防策となる。

この小冊子の内容は「医師による発育・発達・病気の電話相談」からの内容を抜粋したものです。

03-3219-0797 毎週水曜日 14時～17時に受けつけています

低身長はメールでも受けつけています

アドレス moshimoshi@pep.ne.jp

ホームページ <http://club.pep.ne.jp/~moshimoshi/>

監修

横田俊一郎先生（横田小児科医院院長）

構成／泉美智子 イラスト・レイアウト／いとうやすこ

耳の下リンパ腫の腫れがひかない

風邪で発熱後にできた首の耳下にあるグリグリ。
気のせいが大きくなっているみたい。
先生からもらった薬飲んででも変化なし。
先生は大丈夫というけど。

— 5才6か月女児のママの電話相談から —



ここでリンパ球が闘ってリンパ節が炎症を起こすので腫れるのです。

でも、私もよく風邪をひくのですが熱が出ても首にグリグリはできませんが…。

先生 ●それは子どものリンパ節の働きが特に活発だからです。だから子どもは風邪をひいただけでもすごく大きく腫れることがあるのです。

そして、うちの子の場合、2週間たっても、まるで大きさが変わらないというときはやはり何か別なものであると考えたほうがいいのではないですか。

先生 ●これはいつたんとできるとなかなか小さくなりませんが、何か月も小さくならない場合もあります。夏場、頭のあせもから細菌がはいったために首にたくさん小さいリンパ節の腫れができる子がいるのですが、これは冬までそのままという子もいるくらいです。

先生 ●実は私はガンなどを心配しているのですが、かかりつけの先生は、さわってもやわらかいから心配ないといわれるのですが、そんなのですか。

先生 ●そうですね。やわらかくて動くものはまず心配ないといわれています。

ガンだと固いということですが。

先生 ●グリグリをさわると石のように固いですし、白血球とかリンパ節のガンでしたら、どんどん大きくなるし、数も増えるのが特徴です。

実は少し大きくなたようにも思えるのですが。

先生 ●これらの病気でグリグリが大きくなるという場合は、なんとなく大きくなつたなどという程度ではなく、目に見えて大きくなるのが普通です。

そう伺つと少し心配はとけましたが、でもまたなんとなく不安で。

先生 ●みてもらった小児科医が何ともないといっているのですから、もう少し待ってみたらどうですか。

発達

広汎性
発達障害

低身長

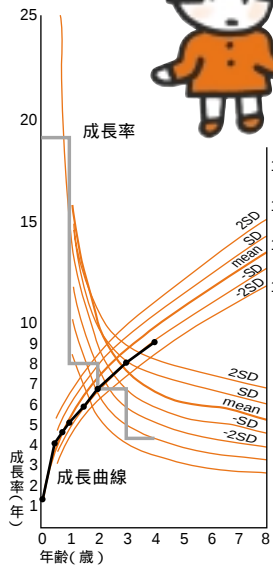


4才0か月の女の子
身長85.5cm。ターナー症候群？

Q 肘が曲がっているし、首は短いし、これだけの低身長でもあるので不安になり、本で調べました。その結果いちばんあてはまるのがターナー症候群。かかりつけの小児科医に聞いたのですが、はっきりしません。でも検査結果、身長は-3.7SDで、骨年齢は2才ということでした。

A かなりの低身長ですし、ターナー症候群の特徴もあるようですので、これは専門病院で相談されたらどうでしょうか。

ターナー症候群であれば、年齢によっては(特に4~7才くらいまで)は高くないときがあるので、確定するには染色体の検査が必要でしょう。この検査までは一般の小児科ではあまりしないので、必ず専門医に行ってください。大学病院であればほとんど専門医はいます。



1才9か月の男児。広汎性発達障害といわれたが、これって何？

Q まだ小さいからわからないけれど、発達がアンバランスだから、広汎性発達障害かもしれないといわれました。聞いたことない名前にとまっています。

A 自閉症に似ているけれど、少し違うものがあります。他人事とのやりとりがうまくできない、会話になりにくい、興味や活動が決まっていて、執拗に繰り返すなどが特徴。多動、不器用、音に敏感、激しい偏食、睡眠障害、不登校などを伴うこともあります。完全に治ることはありませんが、根気よくその場に対応できる行動を教えるなどが有効と考えられています。40~70%は社会的適応ができないのが現状ですが、程度によっては普通学級に通っている子どももいます。

